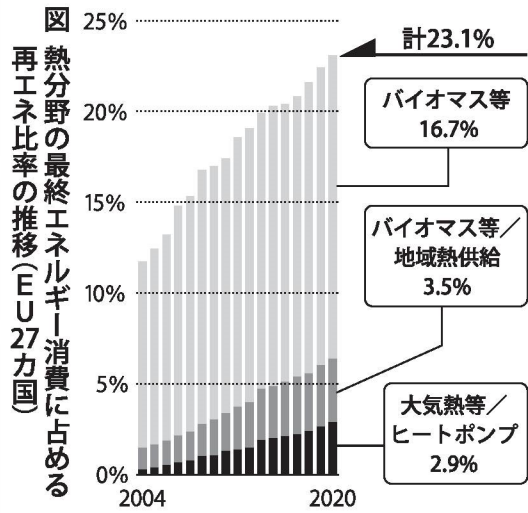


なぜヒートポンプの熱源を再生可能エネルギーとしてカウントすることが重要なのか？



熱分野の最終エネルギー消費に占める再生エネルギーの割合は、2004年の0.3%から2020年には2.9%と約10倍に増加している。現状ではバイオマス燃料が再生エネルギーの大半を占めるが、その資源

に認識され始めた。一計画に掲げている。方、日本国内では省エネルギー技術として認識されていないのと同時に、日本でも欧州と同様に、ヒートポンプが利用する再生

# バイオマスには限界が算定手法の確立に期待

める再生エネルギーを20%以上にする目標を掲げていたが、今年1月の欧州統計局発表によると、EU全体で22.1%とその目標を達成した。分野別では、電力が37.5%、熱が23.1%、輸送が10.2%であった。

熱分野の最終エネルギー消費に占めるヒートポンプ熱源の再生エネルギーの割合は、2004年の0.3%から2020年には2.9%と約10倍に増加している。現状ではバイオマス燃料が再生エネルギーの大半を占めるが、その資源



電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 主任研究員 甲斐田 武延

かいた・たけのぶ 2011年度入所。専門は熱工学

ヒートポンプは、カーボンニュートラルに向けた対策の中で優先順位が高い、高効率な電化技術として世界的

に認識され始めた。一計画に掲げている。方、日本国内では省エネルギー技術として認識されていないのと同時に、日本でも欧州と同様に、ヒートポンプが利用する再生エネルギーの割合は、2004年の0.3%から2020年には2.9%と約10倍に増加している。現状ではバイオマス燃料が再生エネルギーの大半を占めるが、その資源

## ゼミナール

### 需要家サービス

エネルギー自給率の向上に寄与することが「見える化」されていない。欧州連合(EU)では、ヒートポンプの熱源として利用する大気熱等を再生エネルギーとして算定し、1次エネルギー自給率にも反映させている。そのため、ロシアのウクライナ侵攻を受け、今年3月に国際エネルギー機関が発行した「EUのロシア産天然ガスへの依存を減らすための10項目計画」の中でも、ガス燃焼器からヒートポンプへの転換を重要な行動

エネルギー消費に占める再生エネルギーの割合は、2004年の0.3%から2020年には2.9%と約10倍に増加している。現状ではバイオマス燃料が再生エネルギーの大半を占めるが、その資源

熱分野の最終エネルギー消費に占める再生エネルギーの割合は、2004年の0.3%から2020年には2.9%と約10倍に増加している。現状ではバイオマス燃料が再生エネルギーの大半を占めるが、その資源

熱分野の最終エネルギー消費に占める再生エネルギーの割合は、2004年の0.3%から2020年には2.9%と約10倍に増加している。現状ではバイオマス燃料が再生エネルギーの大半を占めるが、その資源

熱分野の最終エネルギー消費に占める再生エネルギーの割合は、2004年の0.3%から2020年には2.9%と約10倍に増加している。現状ではバイオマス燃料が再生エネルギーの大半を占めるが、その資源